

平成30事業年度

財務レポート

北見工大

国立大学法人

北見工業大学

平成30年度 財務トピックス

強み・特色のある研究分野に係るセンターへの学長裁量経費の配分



本学の強み・特色のある研究を推進するために設置した、環境・エネルギー研究推進センター、冬季スポーツ科学研究推進センター及びオホーツク農林水産工学連携研究推進センターへ学長裁量経費の重点配分を行った。

そのなかでも、大学が持つ研究シーズを地域第一次産業への工学的支援へと展開し、地域が培ってきた技術の承継と発展、課題解決に取り組むことを目的として、平成30年7月に新たに設置したオホーツク農林水産工学連携研究推進センターへは150万円の配分を行い、農業の省力化・機械化に関する研究推進のためにロボットアーム（左下写真）や簡易で丈夫な林道専用道の開発のために北見市より無償貸与を受けている旧競馬場跡地（オホーツク地域創生研究パーク）に簡易林道（右下写真）の設置を行い、一次産業課題解決に向けた研究の推進を図った。

財源：学長裁量経費：220万円

北海道内国立大学法人の経営改革の推進



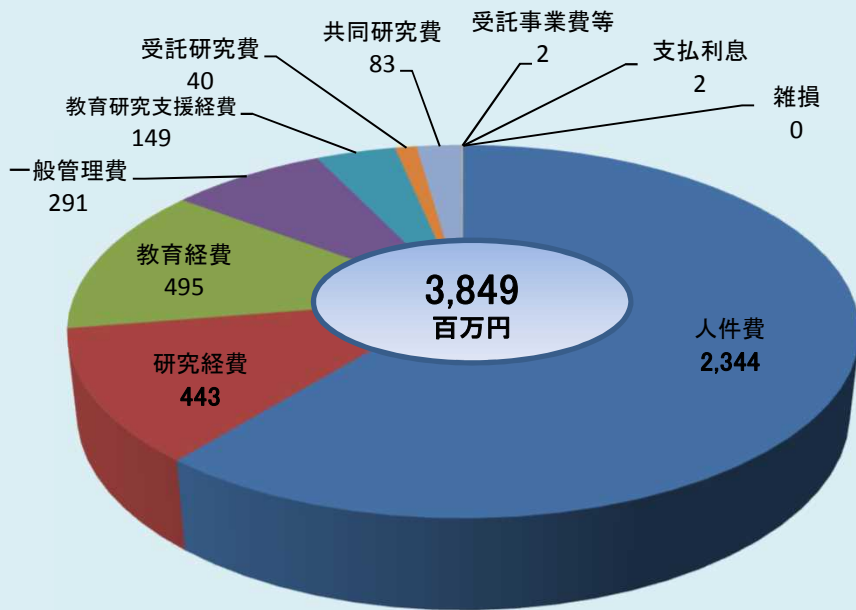
社会に開かれた経営体制を構築し、社会のニーズに即して三大学の教育研究機能を強化することにより、北海道経済・産業の発展に貢献することを目標として、「商学」を担う小樽商科大学、「農学」を担う帯広畜産大学と異分野での経営統合に合意し、それを実現するための経費として補助金を獲得した。
（補助期間：平成30年度～令和3年度）

補助金（国立大学経営改革促進事業）：1070万円（平成30年度分として）

平成30事業年度の損益報告

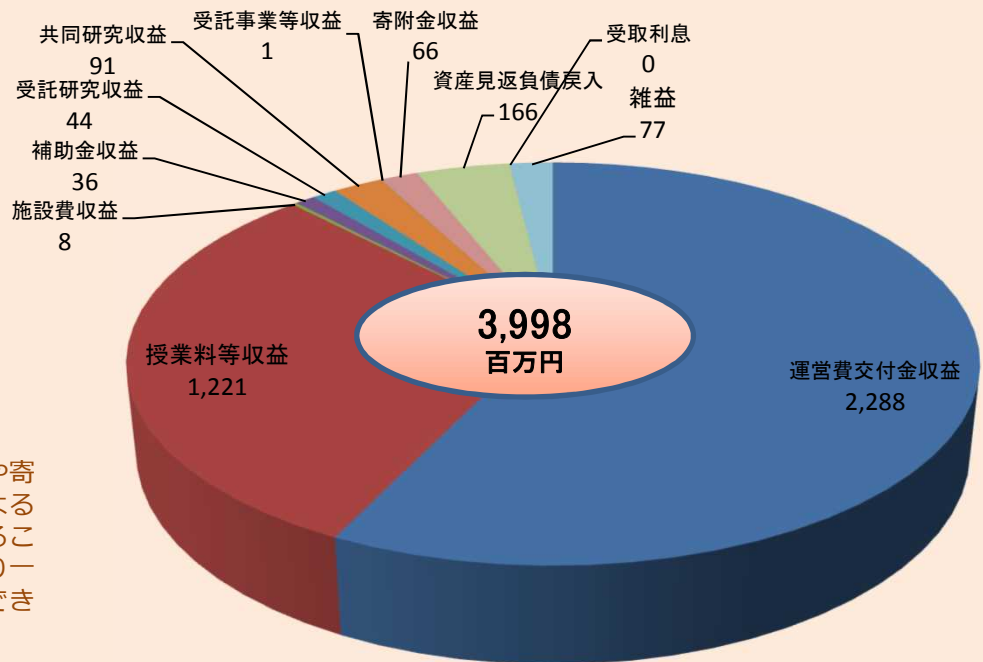
単位:百万円
(詳細は財務諸表をご覧ください)

経常費用



人材育成に直接関連する教育経費については、人件費や一般管理費を含む他経費とのバランスに留意しながら確保に努めることが重要です。

経常収益



受託研究、共同研究や寄附などの外部資金による収益基盤を充実させることで、大学運営をより一層安定させることができます。

経常利益

経常費用	3,849
経常収益	3,998
経常利益	149

経営努力等

経費削減への取り組み

- 学内会議において電子会議システムを順次導入し、ペーパーレス化によりコピー用紙を削減し印刷コスト削減や業務効率化を図った。

自己収入確保への取り組み

- 外部資金獲得者に対する優遇策として、外部資金獲得に貢献した教員に報奨金を支給した。
- 1次産業関係者へのニーズ調査等の共同研究につながる取組を実施した結果、共同研究が118件、奨学寄附金が105件となり、目標値の共同研究82件以上、奨学寄附金61件以上を大きく上回った。

施設マネジメントに関する取組

- 第2体育館共用部分照明設備のLED化を実施し、年間約3,000kWhの消費電力削減が可能となった。

資産の状況

単位：百万円

	平成30年度	平成29年度	増減		平成30年度	平成29年度	増減
資産の部	9,340	9,706	▲366	負債の部	2,599	2,899	▲300
土地	1,562	1,562	0	資産見返負債	1,726	1,803	▲77
建物・構築物	5,244	5,436	▲192	その他の固定負債	120	189	▲69
機械装置・工具器具備品	488	657	▲169	運営費交付金債務	56	53	3
図書	1,002	1,007	▲5	その他の流動負債	697	854	▲157
その他の固定資産	36	30	6	純資産の部	6,741	6,806	▲65
現金・預金	974	946	28	政府出資金	4,333	4,333	0
その他の流動資産	34	66	▲32	その他の純資産	2,408	2,473	▲65

北見工業大学の理念と使命

北見工業大学は「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」を理念に掲げ、高度化・複雑化している科学技術の急速な進展の中で、「個々の専門分野についての基盤的な技術、知識を有するのみならず、学際領域や新しい分野の開拓にも柔軟に対応できる能力を持ち、自然と調和した科学技術の発展と国際社会への対応を念頭においた技術開発を行い得る人材を養成する」ことを使命としている。このことをもって、本学は地域社会の発展はもとより、国家・国際社会の安全と平和および文化の進展に貢献する。

北見工業大学の基本目標

- 向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育
- 個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究
- 地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献
- 国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進